

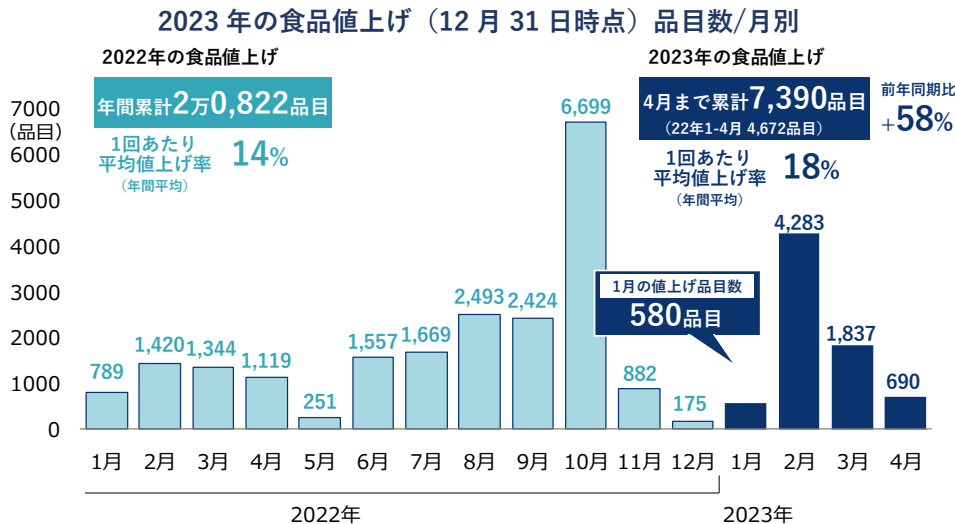
特別企画：「食品主要 105 社」価格改定動向調査—2023 年 1 月

# 今月値上げ 580 品目 来月は 4000 品目超で予定 1 個減など「目に見える値上げ」実感の 1 年に

内容量減による実質値上げも、「1 個減」など目に見える形でインフレ実感へ

2023 年の値上げでは、価格を変えずに内容量を減らす「実質値上げ」のケースが増えている。今後も、既に複数回値上げを行った菓子などの嗜好品、日常的に購入する食品などでは、気軽に購入できる店頭価格を維持するため実質値上げが選ばれる可能性がある。ただ、短期間かつ複数回に及ぶ実質値上げは 1 枚・1 個単位での内容量減をより実感しやすくなる側面もあり、消費者目線では前年以上に「目に見える形」でのインフレを実感する年になりそうだ。

足元では、原油価格をはじめとしたエネルギーや食料品コスト、円・米ドル為替相場といったコスト上昇速度は落ち着き、緩やかな減速の兆しもある一方、依然として高止まりの状態が続いている。消費者に近い製品・業種ほど価格転嫁も十分に進んでおらず、前年分のコスト増を持ち越す形で、23 年もしばらくは値上げの動きが続くとみられる。



[注] 調査時点の食品105社の2022-23年価格改定計画。実施済みを含む。品目数は再値上げなど重複を含む。()内は前年同月の数値

[注] 品目数および値上げは、各社発表に基づく。また、年内に複数回値上げを行った品目は、それぞれ別品目としてカウントした。値上げ率は発表時点における最大値を採用した。なお、価格据え置き・内容量減による「実質値上げ」も対象に含む

株式会社帝国データバンク 情報統括部長 上西 伴浩

【問い合わせ先】 飯島 大介 03-5919-9343 (直通) daisuke.iijima@mail.tdb.co.jp

情報統括部: tdb\_jyoho@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

## 1 月値上げは 580 品目 前年から約 200 品目減、3 カ月連続の 1000 品目割れ

この春までは食品値上げのラッシュが続く。2022 年末までに決定した、23 年中の飲食料品における値上げ品目数は、4 月までの予定を含め累計 7390 品目に上った。品目数は前年と同じ時期（22 年 1-4 月：4672 品目）に比べて約 60%多かった。1 回あたりの平均値上げ率は 18%に達し、2022 年通年に比べても 4pt、前年同時期の平均値（11%）からは 7pt 高い水準だった。22 年に比べて大幅な価格引き上げを行う企業・食品が多く、値上げ率が大きく高止まりする原因となっている。

このうち、2023 年 1 月単月の値上げは 580 品目だった。前年同月（789 品目）に比べて 209 品目少なく、前年 11・12 月に続き 3 カ月連続で 1000 品目を下回る水準となった。ただ、2 月には 22 年以降で 2 番目に多い規模となる 4000 超の品目で値上げが控えるほか、3 月も既に前年同月を上回っており、春先にかけて値上げラッシュの第一波が到来する見通しとなっている。

2023 年の値上げは前年の原材料価格の高止まりに加えて物流コストなどの上昇、急激に進んだ円安などの影響が長引き、コスト上昇分を緩やかに価格へ反映する動きが目立つ。特に、近時は落ち着いた推移を見せているものの、前年初めに比べると大幅な円安水準であることもコスト増に拍車をかけ、改定幅を大幅に上回るコスト増に直面したことも値上げラッシュが長期化する原因となっている。

## お好み焼き粉やツナ缶、菓子パンなど値上げ 昨年に続き複数回値上げも

2023 年の値上げで最も多い食品分野は加工食品の 3897 品目だった。全体の半数超を占めたほか、かまぼこなど水産練り製品や冷凍食品などを中心に 2 月に値上げが集中している。次いで焼酎や輸入ワイン・ウイスキー、リキュール類など酒類を中心とした酒類・飲料（1446 品目）、ドレッシングや醤油、つゆ・たれ製品を中心とした調味料（1417 品目）と続いた。嗜好性の強い菓子（526 品目）では、本体価格の引き上げではなく内容量減による価格維持＝「実質値上げ」の傾向が目立つ。原材料でも、家庭用オリーブオイルなど食用油で再値上げの動きがみられた。

このうち、1 月単月の値上げでは加工食品が最も多く 378 品目だった。ツナ缶などの水産缶詰製品のほか、お好み焼き粉といった加工粉製品、パスタソースなどが中心で、1 月の値上げのうち約半数を占めた。米菓やパンなどでも実質値上げの動きがみられた。

### 主な食品分野 価格改定の動向

[注] ( )内は2022年の実績値。矢印は前月調査からの拡大を示す

	加工食品	調味料	酒類・飲料	菓子	原材料・パンほか (小麦・砂糖類)
品目数	3,897 (8,536)	1,417 (4,808)	1,446 (4,026)	526 (1,342)	104 (2,110)
1 回あたりの 平均値上げ率	19% (16%)	19% (15%)	19% (16%)	14% (13%)	20%以上 (12%)
背景	食肉・水産品などの価格高騰 物流費の上昇 円安による輸入コスト増	砂糖、食用油の価格高騰 包装資材費の上昇	円安による輸入コスト増 缶・ペットボトルなど包装資材費の上昇	食用油の価格高騰 物流費の上昇 エネルギーコストの上昇	原材料価格の上昇 包装資材・運輸コストの上昇 円安による輸入コスト増
主な食品	冷凍食品、水産缶詰 シリアル食品 麺製品	醤油、ソース、ケチャップ 調理用ワイン ドレッシング	輸入ワイン・ウイスキー類 焼酎・RTD飲料 エナジードリンク	米菓 スナック・チョコレート菓子 ゼリー製品	ホットケーキミックス オリーブオイル 菓子パン